

問題 C

問 1. 嚥下に関連する脳神経のうち関係のないものを一つ選びなさい。

1. 三叉神経
2. 迷走神経
3. 滑車神経
4. 舌咽神経
5. 舌下神経

問 2. 口蓋帆咽頭閉鎖不全の症例に関する次の記述のうち誤っているものを1つ選びなさい。

1. 本症例では呼吸機能には影響は生じない。
2. 重症な場合、鼻腔より食物が漏出することがある。
3. レベル1のEBMを持つリハビリテーションは、PLPである。
4. 口蓋帆咽頭閉鎖不全のケースでは、構音時に/pa/や/ba/が/fa/となる。

問 3. 口腔期から咽頭期にかけての嚥下運動の特徴を述べた次の文章のうち、誤っているものを選びなさい。

1. 咽頭期では、口蓋帆の短時間の前方移動とそれに続く挙上運動を伴う
2. 舌骨喉頭複合体の下降と前方移動
3. 喉頭蓋の反転
4. 声帯の内転(閉鎖)
5. 上食道括約筋の開大

問 4. 摂食・嚥下メカニズムに対する年齢(加齢)の影響に関する次の記載のうち誤っているものの組み合わせを選びなさい。

- a. 咽頭収縮時間の延長
- b. 口腔通過時間の延長
- c. 舌骨の前方移動の促進
- d. 咀嚼筋力の低下
- e. 咽頭・喉頭粘膜の感度の上昇

1 (a c) 2 (c d) 3 (b c) 4 (a d) 5 (c e)

問題 C

問 5. 嚥下咽頭期に起きないのはどれか選びなさい。

1. 喉頭蓋の後傾
2. 披裂喉頭蓋ヒダの収縮
3. 仮声帯の内転
4. 食道入口部の収縮
5. 耳管の開大

問 6 誤っている組み合わせを選びなさい。

1. 舌左右運動障害 ————— 咀嚼障害
2. /pa/音の歪み ————— 食べこぼし
3. /t/音の歪み ————— 食塊移送不全
4. /k/音の歪み ————— 食塊保持不全
5. 開鼻声 ————— 咽頭流入

問 7 喉頭挙上期型誤嚥を示す症例に適さない食事の組み合わせを選びなさい。

- a. コンソメスープ
- b. 煮込みハンバーグ
- c. ポテトサラダ
- d. チョコレートムース
- e. コーヒー

1 (a b) 2 (a e) 3 (b c) 4 (c d) 5 (d e)

問 8 正しいものを選びなさい。

1. 食べる機能の障害を「構音障害」もしくは「摂食・嚥下障害」と呼ぶ。
2. 誤嚥性肺炎を繰り返す人には、速やかに胃瘻などの経管栄養を開始する。
3. 摂食・嚥下リハビリテーションはリスクを伴うことが多い為、全身状態が落ち着いてから開始する。
4. 摂食・嚥下リハビリテーションとは、食物摂取を行う直接訓練のみではなく、機能の評価や間接訓練を含んだ包括的な治療のことを指す。

問題 C

問 9 誤っているものを選びなさい。

1. 口腔は、前方は口唇、側方は頬、上部は口蓋、下方は舌・舌下部からなる口腔前庭に囲まれている。
2. 舌の前方2/3の味覚は顔面神経、感覚は三叉神経が支配している。
3. 咀嚼筋は、咬筋・側頭筋・内側翼突筋・外側翼突筋の4つがあげられる。
4. 唾液には、消化酵素のアミラーゼを含む漿液性唾液と、粘膜の表面を滑らかにする粘液性唾液とがある。

問 10 誤っているものを選びなさい。

1. 摂食・嚥下運動の5期とは、先行期・準備期・口腔期・咽頭期・食道期のことである。
2. 体内の血糖やホルモン等の情報が視床下部の摂食中枢を刺激して食欲が形成される。
3. 唾液腺への副交感刺激で粘液性唾液が、交感神経刺激で漿液性唾液が分泌される。
4. 嚥下に関する主な運動神経には、脳神経では三叉神経・顔面神経・舌咽神経・迷走神経・舌下神経などがある。

問 11 誤っているものを選びなさい。

1. 摂食・嚥下障害は、原因疾患によって大きく機能的障害と器質的障害に分けられる。
2. 代表的な意識障害の原因は、脳卒中・外傷性脳損傷・脳腫瘍などであるが、脳に病変がないものも多数ある。
3. 気管カニューレは、呼気・吸気が声門を通過しない為、喉頭粘膜の感覚が低下し、咳反射の消失を引き起こす。
4. 経鼻経管栄養チューブは、チューブが咽頭を交差するよう挿入すると良い。

問 12 嚥下に関して誤っているものはどれか選びなさい。

1. 随意運動と反射により生じる。
2. 声帯の閉鎖が生じる。
3. 喉頭蓋が後方へ倒れる。
4. 甲状軟骨が下方へ動く。
5. 軟口蓋が咽頭鼻部と咽頭口部を遮断する。

問題 C

問 13 加齢による変化として正しくないものはどれか選びなさい。

1. 歯牙の欠損
2. 咽頭残留の減少
3. 舌骨の下垂
4. 口腔筋力の低下
5. 唾液の減少

問 14 嚥下に関する記載で正しいものはどれか選びなさい。

1. 口腔内の食塊は、反射運動で咽頭へ送られる。
2. 軟口蓋が挙上すると咽頭と鼻腔の通路が開く。
3. 喉頭蓋が引き上げられて気道が閉鎖される。
4. 食塊が食道に入る時期に呼吸が促進される。
5. 食道の食塊移動は蠕動運動による。

問 15 障害を受けると「パピペポ」が発音しにくくなるのは脳神経のどれか選びなさい。

1. 三叉神経
2. 顔面神経
3. 舌咽神経
4. 副神経
5. 舌下神経

問 16 咀嚼・嚥下に関する記述で正しいものの組み合わせを選びなさい。

- a. 咀嚼の下顎運動には、三叉神経が関与する。
- b. 喉頭は鼻腔と上咽頭の間が存在する。
- c. 嚥下運動には喉頭期がある。
- d. 肺炎の原因に不顕性誤嚥がある

1 (a b) 2 (b c) 3 (a c) 4 (c d) 5 (a d)

問題 C

問 17 嚥下の過程に関する組み合わせで正しいものを選びなさい。

1. 咽頭期 —— 随意運動
2. 食道期 —— 蠕動運動
3. 準備期 —— 食物の認識
4. 口腔期 —— 不随意運動
5. 先行期 —— 食塊の形成

問 18 嚥下障害に関する記述で間違っているものを選びなさい。

1. 脳血管障害は原因になる。
2. バセドウ病は原因になる。
3. 加齢は誘因になる。
4. 向精神薬は原因になる。
5. 意識障害は原因になる。

問 19 嚥下障害に関する記述で間違っているものを選びなさい。

1. 嚥下訓練には、食物を用いた間接訓練がある。
2. トロミ食やゼリー食が用いられる。
3. 嚥下障害は肺炎の原因になる。
4. 脳神経障害は嚥下障害の原因になる。
5. 嚥下造影検査による評価は有用である。

問 20 口蓋舌弓と口蓋咽頭弓の間に位置するのはどれか選びなさい。

1. 口蓋垂
2. 舌扁桃
3. 口蓋扁桃
4. 耳管扁桃
5. 咽頭扁桃

問題 C

問 21 摂食・嚥下障害で咽頭期に起因する症状はどれか2つ選びなさい。

1. むせる
2. 咀嚼に時間がかかる
3. 食事後に声に変化する
4. 口から食物がこぼれる
5. 食物残渣が口腔前庭部に残る

問 22 誤っているのはどれか選びなさい。

1. CRPが上昇している場合には誤嚥を疑う。
2. 摂食条件の変更は一つずつ行う。
3. 半固形物摂取時は、義歯は装着しなくてよい。
4. 口腔内汚染は誤嚥性肺炎の一因となる。
5. 一口量の調整のためには皿部分が小さなスプーンを用いる。

問 23

問 24 舌接触補助床(PAP)で改善できる障害はどれか2つ選びなさい。

1. 睡眠障害
2. 構音障害
3. 開口障害
4. 呼吸障害

問題 C

5. 嚥下障害

問 25 正常嚥下時に認められないのはどれか1つ選びなさい。

1. 嚥下時無呼吸
2. 頸部伸展
3. 喉頭挙上
4. 鼻咽腔閉鎖
5. 声門閉鎖

問 26 誤っているものの組み合わせを選びなさい。

1. 喉頭挙上遅延 —— 唾液の誤嚥
2. 口腔内の感覚低下 —— 一口量の増加
3. 歯牙欠損 —— 準備期の延長
4. 軟口蓋挙上不全 —— 鼻への逆流
5. 喉頭下垂 —— 流涎

問 27 摂食・嚥下障害に関するヒヤリハット報告について正しいものを1つ選びなさい。

1. 認知症患者の先行期障害は稀である。
2. 中枢疾患ではない、一般疾患の高齢者の事例は少ない。
3. 傾眠患者や摂食意欲のない患者には、眠剤の内容の検討や空腹になる時間に食事を取らせるなどの対応が望まれる。
4. 摂食直後は疲労を考慮して、速やかに臥位を取らせた方が良い。
5. 嚥下障害患者の食事形態は「きざみ食」が推奨されている。